

科目名 臨床薬理学 時間割表記名 臨床薬理学		配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 15時間(8回)	講義担当者 濱崎 友実 (実務経験のある教員)
事前学習内容 薬理学で学習した知識を想起し活用できるよう準備する。 事例検討で用いる疾患・治療・看護について必ず事前に学習する。			
授業目標 1. 主な疾患の成因・病態に応じた薬による治療効果、用いられる薬の作用機序と副作用、禁忌などの薬物療法の知識を習得し、各薬物の効果的な与薬方法について理解できる。 2. 患者の病態と症状に応じた薬物療法の目的、指示および処方の意図を理解し、与薬のアセスメントができる。			
DPとの関連 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	対症療法薬における臨床薬理学と薬物療法における看護師の役割	講義	テキスト①②
2	主要疾患の臨床薬理学①	講義・演習	テキスト①②
3	【事例検討:糖尿病(2型糖尿病)】 血糖降下薬・インスリンの調整・服薬指導		
4	主要疾患の臨床薬理学②	講義	テキスト①②
5	【事例検討:心不全】 抗血小板・抗凝固療法、血管拡張剤 輸液の管理		
6	主要疾患の臨床薬理学③ 【事例検討:関節リウマチ】 副腎皮質ステロイド薬・抗リウマチ薬・鎮痛剤	講義	テキスト①②
7	加齢に伴う薬物動態の変化④ 高齢者に影響を及ぼす薬剤(睡眠薬、利尿薬)	講義・演習	テキスト①②
8	試験(45分)	試験(筆記)	
受講上の注意 ○薬理学、診療の補助技術Ⅰの知識・技術を踏まえて講義を進める。 ○各事例に看護実践スクリプトの提出がありルーブリックをもとに評価を行う			評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ①系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ②系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院			